

## 教育機関<sup>1)</sup>と家庭と地域住民等との連携

### — 0歳から100歳までの道德教育 —

Partnership and Cooperation among Educational Institutions, Families, and Local Residents : Moral Education of All Generations

佐藤実芳 (Miyosyi SATO)

#### はじめに

平成18年に改正された教育基本法第13条において、学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力が求められるようになった。文部科学省のHP「教育基本法について（規定の概要）」には、本条の新設に関して、以下の説明がある。

本条を新設し、学校、家庭、地域住民など社会を構成する全ての者が、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚し、相互に連携協力を努めるべきことを規定しています。<sup>2)</sup>

教育の役割を果たすのは、学校だけではない。家庭や地域社会も、学校とは異なる教育の役割を果たしている。しかし、核家族化や少子化、家族形態の多様化等に伴い、本来家庭で行われるべき教育ができない状況になりつつある。また、地域社会の希薄化により社会全体で子育てをするという雰囲気も少なくなっている。地域に受け継がれてきた伝統行事等も形式的なものになり、地域社会における子ども達の学びの場も少なくなっている。

子ども達をめぐる様々な問題に直面し、その解決に迫られている今日、学校だけではなく、家庭と地域社会の教育力を再生し、これらの3者を最大限に活用して子ども達を教育する必要がある。知育や体育に関しては、教育の専門的知識のある教諭が指導する学校が中心となる。しかし、道德や食育に関しては、家庭や地域社会の果たす役割が大きい。

ところで、「一部改正学習指導要領」（平成27年3月告示）により、平成30年度から小学校で、翌平成31年度から中学校で、「道德の時間」が「特別の教科である道德」（道德科）に改められ、「考え、議論する道德」への転換が目指されることになった。小・中学校で「道德の時間」が「道德科」に改められても、「学校の教育活動全体を通じて行う」という考え方は、以前と変わらない。しかし、小・中学校生活が子どもにとって生活の一部である限り、道德教育を学校の教育活動全体で行ったとしても、効果的であるとは言い難い。大切なのは、小・中学校と家庭と地域社会とが連携して教育をすることだと考えられる。

また、教育基本法第11条には「幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものである」と明記されており、小・中学校における道德科の教育を成功させるためには、幼児期の教育が鍵であると考えられる。『幼稚園教育要領』（平成29年3月）の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10項目の中にも、「道德性・規範意識の芽生え」と「社会生活と

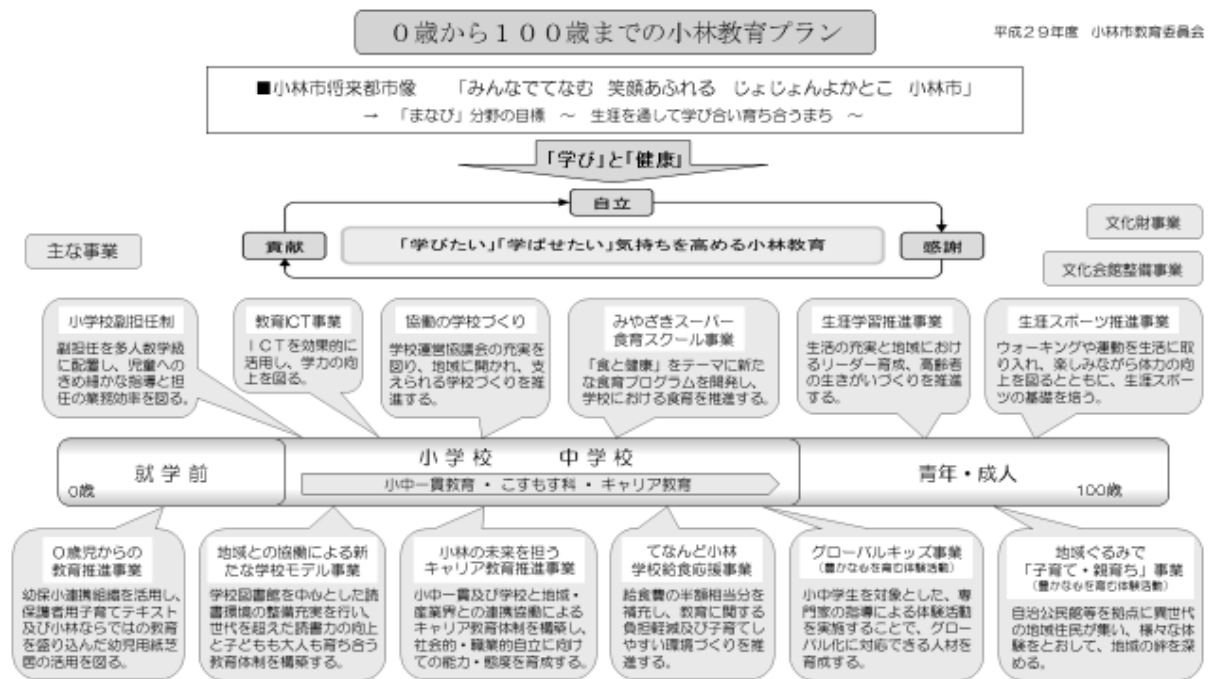
の関わり」が記されている。就学前の子ども達が通う保育所や認定こども園を含めた就学前教育機関からの道徳教育が、小・中学校の道徳教育の基礎となる。

子ども達の道徳教育には、学校、家庭及び地域住民等が各々の役割を自覚し、相互の連携協力が必要であることを理解することはできても、実際にそれを実現することは容易なことではない。学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力を実現させるためには、私たち一人ひとりの意識変革が求められる。というのは、各自での意識改革が困難であるからである。

本稿では、市民一人ひとりの自己実現をめざした「0歳から100歳までの小林教育プラン」のもと、「学びたい」「学ばせたい」気持ちを高める教育の取り組みを行っている宮崎県小林市の教育実践から、私たちが目指すべき学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力のあるべき姿を、道徳教育を中心に考察する。

## 1. 「0歳から100歳までの小林教育プラン」

平成25年6月14日に閣議決定された「第2期教育振興基本計画」の前文には、現在の様々な危機的状況を打破するために求められているものは「自立・協働・創造に向けた一人ひとりの主体的な学び」であると明記されている。そして、「人々の多様な個性・能力を開花させ人生を豊かにするとともに、社会全体の今後一層の発展を実現する基盤」が教育であり、生涯学習社会の実現の必要性が説かれている。



小林市教育委員会提供

小林市は、同計画を踏まえて教育目標を「『学びたい』『学ばせたい』気持ちを高める小林教育」とし、「自立」「感謝」「貢献」という循環型の社会づくりの実現を目指している。これを

実現するために、学校教育、社会教育、スポーツ推進の各分野において重点施策を設定して、各種事業を着実に実施できるようにする「0歳から100歳までの小林教育プラン」がある。

学習者側の視点である「学びたい」というのは、0歳から高齢者までを対象としており、同市は全市民が継続した学びにより豊かで健康な人生を送ることを期待している。また、指導者側の視点である「学ばせたい」というのは、保護者、学校の教職員、地域社会の人々が、各々に課された役割を果たすことにより、同市は市全体の教育力が向上することを期待している。

## 2. 「学びたい」「学ばせたい」気持ちを高める小林教育

教育基本法第3条において、生涯学習の理念が以下のように定められている。

第3条 国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことができる社会の実現が図られなければならない。

小林市は、「市民一人ひとりが生きがいをもち、心豊かで充実した人生を送ることができるように人と人との連携や世代間の交流を深めるとともに、生涯にわたって学ぶことの喜びが味わえるような教育的環境を整備する必要がある」<sup>3)</sup>と考えている。



小林市教育委員会提供

生涯学習に、「学びたい」だけでなく「学ばせたい」という視点が盛り込まれているのが、

小林市の教育の特徴である。子ども達が、社会全体の「学ばせたい」という雰囲気を感じながら成長すれば、成人した後は、自ら「学びたい」という気持ちだけではなく、次世代に「学ばせたい」という気持ちが自然と受け継がれていくと期待することができる。社会の変化が著しい今日、年齢に応じて「学ばせたい」事柄も変化してくる。「学ばせたい」というのは、子ども達だけではない。「学ばせたい」のは、全世代の人であるといえる。

まず、「学ばせたい」のは、子育て世代である。核家族化や地域の教育力の低下から、以前は当然のように行われてきた育児をすることができない保護者が少なくない。正高信男は、『ヒトはなぜ子育てに悩むのか』で、子育てに必要な「母親語」<sup>4)</sup>を話すことができない母親がいるものの、きょうだいが多くて年齢差が少ない母親ほど、練習することなく「母親語」を話す確率が高いことを紹介している。「母親語」は一例にしか過ぎないが、大家族で生活していた頃には自然に身に付けることができた育児能力を、核家族化や少子化などの影響で、若い世代が獲得できなくなっている。「母親語」などの育児能力は、これから親になっていく世代に、「学ばせたい」ことのひとつである。

小林市の場合、平成 28 年 3 月に『小林市 ハートほんわか子育て BOOK 私のもとに生まれてきてくれてありがとう ～あなたは 私の宝物 小林の宝物～』を、平成 29 年 1 月に『小林市 ハートほんわか子育て BOOK 2 いつもそばにいてくれてありがとう～あなたは 私の宝物 小林の宝物～』を発行し、妊娠中から子どもが小学校に入学するまでの子育てについて、保護者に対する教育に力を入れている。これらの冊子には、乳幼児期の健やかな成長こそ、小学校入学後の学びの原動力になるという理念のもとに、親子の触れ合いや基本的な生活習慣の習得、子どもの自己肯定観を育てる言葉がけなど、心身ともに健康で豊かな子どもに成長させる為の子育てのヒントが書かれている。これらの冊子を使って、保護者は妊娠中から、生まれてくる子どもに対する教育について学ぶことができる。大切なのは、親も子どもと共に学び、成長していくという意識を、妊娠中から保護者が持つことである。

また、子どもの成長とともに子どもの生活は地域社会に広がっていく。そこで必要となるのが、家庭と地域社会とが連携した子育てである。しかし、地域社会の繋がりが希薄になりつつある現在、家庭と地域社会とが連携するためには、公的機関の関わりが必要になってきている。公的機関である教育機関が中心となって、家庭と地域住民とが連携することができれば、個人では具体化させることが難しい「学ばせたい」気持ちを、具体化させることが容易にできるようになる。そのために小林市では、コミュニティスクールの取り組みを行っている。

### 3. コミュニティスクールとしての市立小・中学校

平成 25 年度より小林市では、市内全公立小・中学校に学校運営協議会を設置し、学校運営に保護者と地域住民の考えを反映させている。そして、学校教育を充実させるために、家庭と地域との連携に取り組んでいる。

西小林小学校では、平成 26 年 6 月、小学校内に、放課後に地域住民が児童の勉強を指導する「寺子屋」と住民がお茶を飲みながら談笑することができる「茶飲ん場」が開設された。「寺

子屋」は図書室を、「茶飲ん場」は生活教室を利用して、月1回同日開催されている。「茶飲ん場」には、児童が休み時間に遊びに来て、高齢者とあやとりやお手玉などをして交流を楽しんでいる。「寺子屋」では、放課後、児童が地域住民に勉強を教わる。どちらも、小学校が地域住民の交流拠点となっている。

児童の視点では、「茶飲ん場」で高齢者に遊んでもらうこと自体嬉しい体験であり感謝の気持ちに繋がる。更に「寺子屋」で、学校の授業だけではわからない勉強を地域住民に教えてもらうことも感謝の気持ちに繋がる。また、「茶飲ん場」においても「寺子屋」においても、児童は学校の教員でも家族でもない大人と接することで、目上の人に対する礼儀作法等を自然と学ぶことができる。あやとりやお手玉など、高齢者が伝承遊びの技を披露してその秘伝を教えることで、児童には高齢者を尊敬する気持ちが生まれる。特に高齢者と接する機会の少ない核家族の児童には、高齢者と接する良い学びの場となると考えられる。

高齢者にとっても、地域住民として児童と接することで、年長者としての教育的な役割を感じ、また生きがいにも繋がっていく素晴らしい場である。逆に高齢者は、子ども達から今流の刺激を受けることができる。仕事に追われる親世代にかわって、子育ての一役を担うことは、昔から高齢者が果たしてきた重要な役割である。現役を引退した高齢者にとっては、子育ての一役を担うことは立派な社会貢献であり、社会的な自立となる。また、元気な子ども達と過ごすことで、高齢者自らの健康の維持にもつながるであろう。

小学校からの道徳教育は学校教育全体で行うことになっているが、学校教育全体だけでは不十分である。従来は地域社会でも自然に行われていた道徳教育を、地域の交流拠点である学校において実現し、それが契機となって地域社会での道徳教育が再び行われるようになるのではないかと期待することができる。

#### 4. 家庭での「手伝い」

「0歳から100歳までの小林教育プラン」を策定する以前の平成21年度<sup>5)</sup>から、小林市では全小・中学校で連携型の小中一貫教育を導入し、市独自の「こすもす科」<sup>6)</sup>を創設した。こすもす科の趣旨は、以下の通りである。

児童一人一人の勤労観や職業観を育てながら、小林市民として生きていくために必要な資質や能力を育て、生まれ育った小林への帰属意識を強くもちながら、よりよい人生を創り出していくための豊かな人生観や価値観の基礎をもった児童生徒の育成を目指している。そのためには、小中9年間の学習内容を発達段階に即して再編成し、小林市民としての資質や能力を高める教育を設定する必要がある。<sup>7)</sup>

同市では、「知」「徳」「体」「食」のバランスのとれた子どもを育成するために、同科の指導を市内全小・中学校において9年間実施して、学校間の格差のない平等で質の高い教育を保障している。

「こすもす科」として9年間で学ぶ内容が、小林教育委員会教育長からの児童生徒の皆さん

へのメッセージとして明記されている。対象となる児童生徒の学年に応じて表現は異なるが内容は同じであるので、中学校2・3学年用を紹介する。

- 自分領域：基本的な生活習慣などの自分自身に係わりの深いことについて学習します。
- 他者領域：自分の考えや思いを相手にうまく伝えるための方法など、人との係わりの中で必要なことについて学習します。
- 社会領域：地域の伝統や文化、自然などの学習や、自分の生き方について学習します。

家庭での「手伝い」は、子どもにしてもらうのではなく、子どもにさせるものである。近年、小学校が宿題とする「手伝い」は、家庭では結局「手伝い」をしてもらうことになっているという面がある。しかし、農業・畜産が盛んな小林市では、田畑や畜舎が子ども達の遊び場であり、自然と子ども達が手伝いをしている。「広報こばやし No.103」（平成26年10月）には、酪農家の小学校6年生の児童が紹介されている。児童は、牛が可愛く両親を助けたいという思いで家業を手伝っており、将来の夢も酪農家になることである。そして、その夢を叶える進路も考えている。

「酪農家になるには、牛の育て方を勉強しないといけないので、農業高校に入って、牛のことを詳しく学びたい。そしてスポーツで体を鍛えて、牛に負けない力をつけたい。」<sup>8)</sup>

子どもが貴重な労働力であった頃の「手伝い」には、真の道德教育が含まれていた。自分の都合ではなく、家庭の必要に応じた「手伝い」をすることで、家族の一員としての役割を果たし、責任感などが身に付いた。それが動物の命に関わるものであれば尚更のことである。

子どもにとって都合の良い「手伝い」ではなく、家庭が必要とする「手伝い」をすることは、家庭での重要な道德教育である。家事の手伝いをした場合も、子どもは保護者の大変さがわかり、保護者に対して有り難いという気持ちが育つ。また、保護者の負担をできる限り軽減するために、できることは自分でするようになる。これが「生きる力」となっていく。

自営業の家庭の場合は、キャリア教育にも繋がっていく。単に高等学校に進学したいという漠然とした思いではなく、将来の夢を実現するために何をやる必要があるのかを理解して、進路選択をしていくことができるのは素晴らしいことである。

## 5. 小林市立野尻幼稚園

筆者は、平成29年2月13日に市内唯一の市立幼稚園である野尻幼稚園を訪問した折に、園児達の同市野尻庁舎への散歩に同行した。歩行距離は500m程度で、訪問の目的は庁舎に飾られた雛人形の見学であった。

### <交通安全指導>

年長児が年少児の手を繋いで、園を出発した。年長児が年少児をエスコートしている姿は微笑ましかった。縦割り保育は社会性を育むと言われるが、年長児が機嫌の良くない年少児を上手く歩かせているのには感心した。

幼稚園と庁舎の間にある三差路では、幼稚園教諭が園児全員にカーブミラーを使った安全確認を指導していた。信号もなく、幼児には危険な三差路である。用心深く繰り返し安全確認をすることを幼児期から身に付けておけば、小学校入学後も子ども達は交通事故から自分を守ることができると思われる。

散歩の途中に、消防自動車、救急車、ごみ収集車に出会った。園児達は喜んで手を振り、消防自動車、救急車、ごみ収集車の人も、園児達に優しく手を振っていた。恐らくこのような機会が頻繁にあるからできることだと感じた。

#### <庁舎に到着後の指導>

庁舎に到着後、教諭は園児に挨拶の仕方や庁舎で仕事をしている人に迷惑にならないように静かに見学することを指導していた。園児は、庁舎の方々に挨拶をして、飾られた雛人形を見学し、順番に記念写真を撮影してもらっていた。その間も騒ぐことなく静かに順番を待っていた。その様子から、園児達が庁舎等を訪問した際の礼儀作法を身に付けていることが分かった。帰り際にある園児が「〇〇さんに会いたい」と言って、庁舎の奥に入っていった。その様子から、園児と庁舎の人との間に信頼関係が成立していることを感じた。

筆者はこの散歩に同行して、幼稚園と地域社会との連携が印象に残った。豪華な雛人形を園児に見せたいとあげたいという地域の人々の暖かい思いは、園児達に自然と感謝する気持ちを育てている。また、日常的に庁舎に勤務する人々や、消防自動車、救急車、ごみ収集車などを扱う人々をはじめとする地域社会の人々との信頼関係が築かれていれば、園児達は将来地域社会に貢献したいと考えるようになるであろう。

「小林市立野尻幼稚園 平成 28 年度 幼稚園経営案」の教育課程の項目において、同園が目指す教育目標の「人間関係」には、以下のように記されている。

一人一人を生かしながら集団生活でのかかわりや小学生や地域の方などの触れ合い活動を通して、他の人々と親しみ、支え合って生活するための自立心を育て、人とかかわる力を養う。

また、年間指導計画 5 歳児の 1・2・3 月の「環境構成の要点」には、「園生活を振り返り様々な人に感謝の気持ちを持てる場をつくる」と記されている。

## 6. 家庭・学校・地域の教育フォーラム

小林市では平成 17 年度から、教育委員会主催で、「愛」・「夢」・「絆」・「命」～子どもの未来のために～をテーマに家庭・学校・地域の教育フォーラムを開催し、家庭・学校・地域・諸団体が日頃の成果を発表している。小林市の市政要覧『鼓動～未来へ、響き合う心～』には、このフォーラムに関して以下のような説明がなされている。

「愛」をもって子どもたちを地域で育てる人たちがつながり、子どもたちは「夢」をもってさまざまな活動に取り組んでいる様子を発表。また、子どもたちの根っこである家庭では、

家族の強い「絆」が家庭での教育力を高め、地域の団体も未来を担う子どもたちの「命」を育むために行っている支援について発表します。<sup>9)</sup>

小林市では、幼稚園・保育所・認定こども園と小学校の連携、小学校と中学校との連携という縦のつながりと共に、子育てを家庭だけに任せずに地域社会全体で子育てするといった横のつながりを、教育委員会が中心となって作り上げている。

まず、教育委員会を中心とした公務員及び教育関係者が率先して子ども達に「学ばせたい」姿を示すことで、一般市民をもその態勢に巻き込み、最終的にはその姿勢が家庭にも浸透していく。特に道徳教育に関しては、子ども達が周囲の人々を観察することから生じる学習効果が大きい。大人が道徳的な行動をしていれば、それが子ども達に対する有効な道徳教育になる。子ども達に学ばせたいという気持ちがあれば、年齢に関係なく大人も自らの言動に気を付けるようになるはずである。大人が決まりを守り、不道徳な行動をしないように自ら戒めることが、子どもの道徳教育になる。

## 終わりに

子ども達は学校だけで学んで、大人になっていくわけではない。授業という形式では学校教育が中心ではあるが、家庭と地域社会でも様々なことを子ども達は学んでいる。学校では、教育の専門家である教諭が子ども達を指導するが、限られた時間と空間でしか指導することができない。子ども達は、家庭や地域社会で様々な人と接し、様々な体験をすることで、感謝の気持ちや社会性を身に付け、将来の夢や希望を育んでいく。

平成 30 年度から小学校、平成 31 年度から中学校で「道徳の時間」が「道徳科」に改められることになり、注目されている道徳教育は、0 歳から始まるものであり、教育機関と家庭と地域社会が連携して行う必要がある。以前は当然のように行われていた家庭や地域社会での教育を、小林市は教育委員会が中心となって「0 歳から 100 歳までの小林教育プラン」として再現しようとしている。「学びたい」だけの生涯学習ではなく、「学ばせたい」気持ちも育てる生涯学習を目指して市全体で子育てをすることが、一人ひとりの市民、家庭、地域社会の成長に繋がることであろう。

道徳教育のみならず子育てに関して危機的な状況にある今日、私たちは一人ひとりが意識改革を行い、「学びたい」とともに「学ばせたい」という思いで生活することが大切である。小林市教育委員会は、「0 歳から 100 歳までの小林教育プラン」をスローガンに、全世代の教育改革を目指している。「学びたい」「学ばせたい」という考え方のもと、次々と実現している同委員会の様々な新たな試みは、個人では難しい教育に対する意識改革の起爆剤となって全市民を変えていくと期待される。

## 【 注 】

1) 本稿では、幼稚園のみならず文部科学省管轄外の保育所や認定こども園等を含めて考えて



いる為、教育機関と表記する。

2) 文部科学省 HP「教育基本法について（規定の概要）」

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/kihon/about/1354049.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/kihon/about/1354049.htm)（平成 30 年 1 月 3 日閲覧）

3) 小林市教育委員会〈「0 歳から 100 歳までの小林教育プラン」策定の趣旨〉、「平成 28 年度 0 歳から 100 歳までの小林教育プラン」。

4) 「母親語」とは、1966 年にアメリカの言語学者チャールズ・ファーガソン (Ferguson, C. A.) が初めて用いた motherese の日本語訳である。「母親語」とは、母親が乳児に、少し高目の声でゆっくりと誇張した抑揚をつけて話しかける方法である。母親だけでなく、乳児に話しかけるときには性別や年齢に関係なく使われる話し方であるため、「育児語」とも言われている。

5) 平成 22 年 3 月 23 日に小林市が野尻町と合併したため、野尻町区では平成 23 年度から「こすもす科」が導入された。

6) 小林市は、生駒高原の 100 万本のコスモスが有名で、市を象徴する花となっている。「こ」：子どもたちの、「す」：すばらしい人生、「も」：もっと大きな夢を、「す」：住みよいまち小林で育もう、という同市の教育に対する夢と願いが込められている。

7) 小林市教育委員会『こすもす科指導者用手引 I 【改訂版】小学校第 1・2 学年用』、平成 24 年 4 月、総—1。

8) 小林市総合政策部企画政策課「広報こばやし No.103」、平成 26 年 10 月、5 頁。

9) 小林市役所総務部総務課編『市政要覧 2011 鼓動～未来へ、響き合う心～』、39 頁。

### 【 参考資料 】

1. 小林市教育委員会『こすもす科指導者用手引 I 【改訂版】小学校第 1・2 学年用』、平成 24 年 4 月。

2. 小林市教育委員会『小林市 ハートほんわか子育て BOOK 私のもとに生まれてきてくれてありがとう ～あなたは 私の宝物 小林の宝物～』、平成 28 年 3 月。

3. 小林市教育委員会『小林市 ハートほんわか子育て BOOK 2 いつもそばにいてくれてありがとう～あなたは 私の宝物 小林の宝物～』、平成 29 年 1 月。

4. 小林市教育委員会「平成 28 年度 0 歳から 100 歳までの小林教育プラン」。

5. 小林市役所総務部総務課編『市政要覧 2011 鼓動～未来へ、響き合う心～』。

6. 小林市総合政策部企画政策課「広報こばやし No.103」、平成 26 年 10 月。

7. 小林市立野尻幼稚園「平成 28 年度 幼稚園経営案」。

8. 正高信男『ヒトはなぜ子育てに悩むのか』、講談社現代新書、平成 7 年。

9. 文部科学省『一部改正 学習指導要領 小学校』、平成 27 年 3 月。

10. 文部科学省『幼稚園教育要領』、平成 29 年 3 月。